

令和2年度 石川工業高等専門学校の課題 外部評価報告書



令和3年2月

はじめに

石川工業高等専門学校は、今をさかのぼること55年前、昭和40年4月に国立高等専門学校第4期校として設立されました。創立以来既に半世紀を超え、我が国産業界を支える8,587名(女子1,469名)におよぶ卒業生や513名(女子99名)の専攻科生を輩出してまいりました。この間、社会、特に産業技術の世界は当時想像もつかなかった大きな革新・変貌を遂げており、当然のことながら石川高専の置かれた環境も大きな影響を受けています。本校は、このような時代の変化に適応すべく、これまで時宜にかなったカリキュラム編成や授業シラバスの変更等を重ねてまいりました。最近ではグローバル人材育成に向けた国際交流事業、情報セキュリティ人材育成事業、非情報系学科を含む全学科での情報教育強化・高度化推進プロジェクトや、地域活性化を旨として地元産業界との連携活動に取り組むなど、その教育システムは絶え間ない変革と進化を遂げて今日に至っております。

本校では、教育・研究の改善に資するために、平成7年に自己点検評価部会を設置し、点検・評価の結果を報告書『明日へ向けて』として、3年ごとに発行しております。同時に運営諮問会議を設置し、地元の教育研究機関、行政機関、企業等の学外有識者による外部評価を毎年開催しております。

平成16年4月以降は、独立行政法人国立高等専門学校機構(高専機構)の発足とともに、他の国立高専と同様、5年を1期とする中期目標・中期計画を策定して運営に当たり、令和元年度からはその第4期目を開始しました。

外部評価としては、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」が7年ごとに行われており、平成27年度に受審しました。また、同機構による認定専攻科(平成12年4月設置、電子機械工学専攻・環境建設工学専攻)を対象とした審査は、平成17年度に続いて平成24年度に受審し、引き続き「適」と認められました。さらに、本科専攻科は平成26年5月に「学位授与に係る特例の適用認定」を申請し、認定を受けました。これまで同機構が行っていた「小論文試験」が省略され、一定の条件を満たすことにより学士(工学)の学位が授与されることになりました。一方、JABEE(日本技術者教育認定機構)対応教育プログラムとしては、本科4年生から専攻科までの4年間で構成される「創造工学プログラム」を平成17年度に設定し、平成22年度に続いて平成28年度更に6年間の継続が認定されました。

これらの数年ごとに実施される外部評価に対して、運営諮問会議による外部評価は、地域の事情に精通されている有識者の方々から評価をいただくもので、毎年実施されております。ほぼ各県に1校ずつ設置されている国立高専は、産学連携や技術者人材輩出等の地域貢献が重要な使命の一つであり、運営諮問会議は地域の様々なニーズを踏まえた御意見をお伺いできる貴重な会議と認識しております。

このような状況下で、このたび地域の学外有識者の方々に本校の現状を知っていただき、本校の教育活動、研究活動、社会活動、管理運営等について、忌憚のないご指摘とご意見をお願いするために、去る令和3年2月26日に運営諮問会議を開催しました。

本報告書は各委員からの評価をそのままの形でまとめてあります。良い評価をいただいている項目がある一方で、厳しい評価をいただいた項目があることも認識できます。厳しい評価内容については逐次分析し、それらに対応した改革を積極的に遂行することが、本校に課せられた重要な使命であり、それがまた評価していただいた委員の方々の労に報いることでもあると考えております。

最後になりましたが、運営諮問会議の方々には、ご多用な中、多大な労に心から深く感謝申し上げますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年3月18日

石川工業高等専門学校
校長 須田 義昭

目 次

はじめに

I	これまでの経過	1
II	外部評価（運営諮問会議）	2
	1 石川工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	2
	2 令和2年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要	3
	3 外部評価シート	8
III	運営諮問会議の意見の要約（講評）	
	運営諮問会議議長 森本 章治	13
	運営諮問会議実施の公表	14
	おわりに	15

I これまでの経過

第1回運営協議会（平成16年3月開催）

第2回運営協議会（平成17年3月開催）

第3回運営協議会（平成18年3月開催）

第4回運営協議会（平成20年3月開催）

平成20年度運営諮問会議（平成21年3月開催）

平成21年度第1回運営諮問会議（平成21年11月開催）

平成21年度第2回運営諮問会議（平成22年3月開催）

平成22年度運営諮問会議（平成23年3月開催）

平成23年度運営諮問会議（平成24年3月開催）

平成24年度運営諮問会議（平成25年2月開催）

平成25年度運営諮問会議（平成26年2月開催）

平成26年度運営諮問会議（平成27年2月開催）

平成27年度運営諮問会議（平成28年2月開催）

平成28年度運営諮問会議（平成29年3月開催）

平成29年度運営諮問会議（平成30年3月開催）

平成30年度運営諮問会議（平成31年2月開催）

令和元年度運営諮問会議（令和2年2月開催）

令和2年度運営諮問会議（令和3年2月開催）

II 外部評価（運営諮問会議）

1 石川工業高等専門学校運営諮問会議 委員名簿

石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長
（三谷産業株式会社 取締役副会長） 饗庭達也

北陸先端科学技術大学院大学
理事（教育，学生担当）・副学長 飯田弘之

石川工業高等専門学校 同窓会会長
（酒井工業株式会社 代表取締役社長） 岡田康晴

公益社団法人
石川県産業創出支援機構 副理事長 斉藤直

石川県小中学校校長会 会長
（金沢市立北鳴中学校長） 濱坂昌明

石川県商工労働部長 南井浩昌

金沢大学 理工研究域長，理工学域長 森本章治

津幡町長 矢田富郎

（五十音順）

代理出席
技術振興交流会 副会長
（株式会社豊蔵組 代表取締役社長） 豊蔵亨一

2 令和2年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要

(1) 日 時 令和3年2月26日(金) 13:30~15:30

(2) 場 所 石川工業高等専門学校 管理棟4階 大講義室

(3) 出席者

・運営諮問会議委員

飯 田 弘 之 (北陸先端科学技術大学院大学 理事 (教育, 学生担当)・副学長)

岡 田 康 晴 (石川工業高等専門学校 同窓会会長)

(酒井工業株式会社 代表取締役社長)

斉 藤 直 (公益社団法人 石川県産業創出支援機構 副理事長)

濱 坂 昌 明 (石川県小中学校校長会 会長)

(金沢市立北鳴中学校校長)

森 本 章 治 (金沢大学 理工研究域長, 理工学域長)

豊 蔵 亨 一 (石川工業高等専門学校 技術振興交流会 副会長)

(株式会社豊蔵組 代表取締役社長)

・学校側出席者

校 長

須 田 義 昭

副校長 (地域・国際連携担当)

瀬 戸 悟

校長補佐 (教務主事)

金 寺 登

校長補佐 (学生主事)

北 田 耕 司

校長補佐 (寮務主事)

重 松 宏 明

校長補佐 (図書情報主事, 図書館長)

山 田 悟

専攻科長

義 岡 秀 晃

校長補佐 (入試広報担当)

富 田 充 宏

点検評価委員会委員長

山 田 洋 士

事務部長

本 芳 則

総務課長

西 田 準

学生課長

米 内 治

・欠席者 饗庭委員, 南井委員, 矢田委員

・会議写真



森本議長



須田校長



飯田委員

斉藤委員

濱坂委員



豊蔵委員



岡田委員



(4) 議事概要

【開 会】

総務課長から、令和2年度運営諮問会議の開会宣言があり、出席委員の紹介、本校出席者の紹介を行った。引き続き、配付資料の確認、日程の確認を行った。

【校長挨拶】

須田校長から、挨拶の後、当会議の議長を森本委員（金沢大学理工研究域長，理工学域長）に委嘱したい旨提案があり、了承された。また、運営諮問会議委員に対し、配付資料及び当会議の結果を踏まえた評価シートへの評価記載について、協力依頼があった。

【議 事】

1. 「石川工業高等専門学校の実況 外部評価のための資料」の概要
標記全体説明及び資料の各章の概要について、次のとおり説明があった。

全体説明（須田校長）

I 理念・目的

第1章 学校の目的（瀬戸副校長）

II 教育活動

第2章 教育組織（実施体制）（瀬戸副校長）

第3章 教員及び教育支援者等（瀬戸副校長）

第4章 学生の受け入れ（冨田校長補佐）

第5章 教育の方法および内容（金寺教務主事）

第6章 教育の成果（金寺教務主事）

第7章 学生支援（金寺教務主事，北田学生主事，重松寮務主事）

第8章 施設・設備（山田悟図書情報主事）

第9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム（金寺教務主事）

III 研究活動

第10章 研究体制と支援（瀬戸副校長）

IV 社会活動

第11章 地域社会との連携（瀬戸副校長）

第12章 国際社会との交流（瀬戸副校長）

V 広報・評価・管理運営

第13章 広報活動（山田悟図書情報主事）

本校からの説明後、質疑応答、意見交換が行われた。

主な質疑、意見は以下のとおり。

- (委員) 遠隔授業で学生の PC 保有率が 60%ということでしたが、残りの学生の対応はどのように行ったのか。

(本校) 4月当初、PC 保有率は 6割しかなかったのですが、日々保護者の方のご協力をいただき、最終的には 8割ぐらい持っていたのではないかと思います。本校でも貸出用 PC として 100台を準備し、どうしても用意が出来ない学生のために途中から PC を貸し出し対応させていただいた。

(委員) 遠隔授業は 2種類 (リアルタイムのものとオンデマンドのもの) があり高専ではリアルタイムのものを重視していると思いますがどのように対応したのか。

(本校) 基本的には各先生方にはどちらでも構わないというふうに伝えてあります。ただ、授業時間内はいつでも質問に答えられるようにオンデマンドであってもしてくださいとお願いしたのとリアルタイムであっても録画をお願いした。学生がいつでも見返せるようにとお願いした。結局、遠隔授業がオンデマンドとなったが学生は何回も見直しできていた。後日、授業が対面となった時、録画がないとの不安も言われ困った。

(委員) 高専は 1クラス 40人 (小中学校は 1クラス 35人ぐらい) で授業を行っていて落第も少ないが、学生数が多かったら教室を分けて広く使わせるとか、高専が優秀な学校で評価は高いのですが、認知度が低いので中学生がもっと高専に行くことによって学校の評価・認知度が上がるのではないかと思います。

(本校) 本校でも「こども高専」とか「体験入学」など中学生や保護者の方に来ていただき、認知度を上げる努力を行っているが、残念ながら今年度はコロナ禍の影響で保護者の方に来ていただけなかった。高専を見ていただく機会を増やすことを考えている。

授業を行っている教室の広さに関しては、なかなか予算が伴わず広くはなっていない。また、1クラス 40人と変わらずコロナ禍の中で分散登校とかしなくてはいけない時には 1クラス 20人で行う計画をしておりました。先生 1人でも大型モニタを活用し 2クラス同時授業を行う準備もしておりました。

(委員) 今年度はコロナ禍の中、体験入学は出来る状態ではなかった。県立の各高校では自作ビデオを作成し、石川県のホームページに掲載している。高専でも自作ビデオを作成し、ホームページに掲載し、いつでも見られるようにしておけば良いかと思いました。

- (委員) 学生寮が男女合わせて約 300人の中、コロナでクラスターが発生する可能性とか、あるいは疑いが出た時は何処に退避させるのかなど高専の対応についてお聞きしたい。

(本校) 寮生の体調が悪くなった場合は一時的に緊急部屋に退避させる。留学生も同様な扱いです。感染の疑いが出た場合は、寮の敷地内に合宿研修施設「自彊館」があり、そちらでしばらく様子を見るという体制をとっている。

- (委員) Wi-Fi を整備していたということでしょうか。

(本校) 5・6年前前から完備しており、教室でも Wi-Fi が授業でも使えるようにしておりました。また、Microsoft の Teams につきましても、コロナ禍の前から高専機構全体で契約しており、そのまま活用ができました。

- （委員）卒業生に対して2年に1度アンケート調査を行っているが、離職率はどのくらいなのか。県外に就職しUターンで帰ってくる。キャリアアップして帰ってくる方がいるのか。技術振興交流会の会員数は年々増えているが、共同研究や受託研究を増やしてほしい。科研も頑張っているが共同研究の方も力を入れていただきたい。

（本校）離職率やUターンで帰ってくる卒業生について、把握していない。ただ、各学科の主任が相談を受けたり企業訪問時に卒業生の情報はたぶん入っているが、集計しまとめているという段階までです。共同研究に関しては、地域の特性によるものかと思います。地元企業との関わりを強め、共同研究や受託研究を増やす努力が必要と思っております。

（委員）企業技術説明会が企業と学校との交流というよりも就職活動のための会となっているのが懸念に思っている。本来の趣旨から少しずれているような気がする。

（本校）企業技術説明会に関しては、就職の色を完全に消し、企業を知ってもらうという機会を取っているが、学生にはその趣旨が完全に伝わっていないとは思っています。

【まとめ】

（森本議長）引き続き非常に高いレベルで教育研究、学生指導をやっていることが確認できました。

志願者数の減少についてはやむを得ない面もありますが、原因分析を進めて改善・努力をしてほしい。

共同研究の獲得は多くは無いようだが、科研費の獲得は高く評価している。

【閉会】

須田校長から、委員に対する謝辞に引き続き、総務課長から閉会宣言があった。

（以上）

（5）資料

1. 石川工業高等専門学校の現況-外部評価のための資料-
2. 石川工業高等専門学校の現況（資料編）
3. 石川工業高等専門学校 管理運営関係，地域・国際連携関係，教務関係，学生支援関係，学生寮関係事項
4. 石川工業高等専門学校運営諮問会議規程
5. 石川工業高等専門学校「学校要覧」（2020年度版）
6. 石川工業高等専門学校 2021 学校案内リーフレット
7. 石川工業高等専門学校の課題 令和元年度 外部評価報告書
8. トライアル研究センター ニュースレター Vol.41
9. 「灯火」第128号
10. 石川工業高等専門学校評価シート（別途：5段階評点基準）（委員のみ）

3 外部評価シート

記入要領

評点欄には下の基準による5段階評価の評点をご記入ください。

- 5：優れている あるいは 適切である。
- 4：やや優れている あるいは ほぼ適切である。
- 3：普通 あるいは どちらとも言えない。
- 2：やや劣っている あるいは あまり適切とは言えない。
- 1：劣っている あるいは 適切とは言えない。

部	章番号	章タイトル	令和2年度		令和元年度
			自己評価 平均評定 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)
第Ⅰ部 理念・目的		本校の精神			
		沿革 概要及び卒業生			
	1	学校の目的	4.9	5.0	5.0
第Ⅱ部 教育活動	2	教育組織（実施体制）	4.9	5.0	4.7
	3	教員及び教育支援者等	4.6	5.0	5.0
	4	学生の受け入れ	4.8	4.6	5.0
	5	教育の方法および内容	4.7	5.0	4.7
	6	教育の成果	4.5	5.0	4.7
	7	学生支援 学習支援等（7.1～7.4） 進路指導（7.9～7.10）	4.8	5.0	5.0
		学生支援 課外活動・生活指導 ・学生相談等（7.5～7.7）	4.6	5.0	4.7
		学生支援 学生寮（7.8）	4.5	4.8	4.5
	8	施設・設備 共同利用施設	4.2	4.6	4.0
	9	教育の質の向上及び改善のための システム	4.4	5.0	4.5
第Ⅲ部 研究活動	10	研究体制と支援	4.6	5.0	4.7
第Ⅳ部 社会活動	11	地域社会との連携	4.5	4.5	4.7
	12	国際社会との交流	3.8	4.5	4.5
第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営	13	広報活動	4.5	4.6	4.7
	14	評価			
	15	管理運営			

委員のご意見

部	章	記入欄
第Ⅰ部 理念・目的	本校の精神 沿革 概要及び卒業生 第1章 学校の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・理念、目的を尊重し、実現するために教職員一同が良く取り組んでいることは高く評価できる。 ・高専機構の目的に基づき、石川高専は基本理念・教育理念のもと、3つの方針に取り組まれており、とても素晴らしいと思いました。 ・3つの方針と学習の成果に関する指針等が簡潔で分かりやすい表現になっており、広く公開されている。 ・情報セキュリティ人材育成事業の取組は評価される。 ・教員の半分が科学研究費補助金を獲得していることも高く評価される。 ・高専の卒業生も様々な社会の場にてご活躍しています。高専の基本理念のもと、在校生に対し引き続きクオリティの高い高等教育を維持して下さるようお願いいたします。
第Ⅱ部 教育活動	第2章 教育組織（実施体制）	<ul style="list-style-type: none"> ・創設以来の長い伝統に支えられ、組織体制は確立され、校長先生のリーダーシップが発揮し易い体制となっている。 ・課外活動はコロナの影響で強く制限されたが、可能な範囲で実施し学生の満足度を高めている。 ・教育の効果を高めるための様々な工夫が随所にみられる。寮生活の学生さんへの支援もよい。
	第3章 教員及び教育支援者等	<ul style="list-style-type: none"> ・大変決め細やかな活動をされていると思った。今年度はコロナの対応で学校としては大変苦勞をしたと思いますが、来年度から普通に戻れるかわからないので、学生へのフォローをお願いします。 ・TOEICのスコアの平均が毎年着実に上昇している。国際社会の中で生きる技術者には生きた英語力が不可欠だと思う。
	第4章 学生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・学生会活動、図書館関係のアンケート項目についての肯定的な数字が高い。今までの図書館、情報関係の整備、及び紀友祭等学生会活動の満足度がうかがえる。（資料64-2 5年生へのアンケート調査から）

	第5章 教育の方法および内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学卒業生が減少している中（また、公立工業高校の倍率が低下している中）、比較的安定した倍率を維持している。素晴らしいと思う。 ・学校紹介動画等（場合によってはパスワード有）をホームページに掲載するなどして、中学生及び保護者に広く広報していくとよい。中学校ではGIGAスクール構想により1人1台端末となっており、閲覧する機会はR3年度からは確実に増える。
	第6章 教育の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数減少の原因分析を進めることが重要である。 ・CBTの全国評価は全国平均より少し上位にあるとのことだが、さらに学力の向上を図っていただきたい。 ・生徒に新型コロナ陽性者が出たとのことで、対応された教職員のご尽力に敬意を表する。
	第7章 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高専生は専門性の高いカリキュラムをこなし、5年間で実践的な技術教育を行うことで魅力的な人格形成に寄与し、様々な事象に対処する知恵を相対的に高く持っていると思います。又、実践的技術者の育成、つまり、自ら課題を発見して解決できる、エンジニアリングデザイン能力を身につけた技術者を育て、卒業後も学び続けることのできる力と人間力を持った人材教育を引き続きお願いいたします。
	第8章 施設・設備	
	第9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム	
第Ⅲ部 研究活動	第10章 研究体制と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費申請体制，採択実績，研究体制など大変すぐれている。これらの研究の中で学生の参加についてよくわからなかった。 ・申請書を準備する段階で校長先生の指導が効果的であると思われる。 ・研究活動は活発に行われていると思いましたが。今年度はコロナで仕方がなかったと思いますが、出前講座や出

		<p>前授業、こども石川高専など、少しずつ増やして行ってほしいと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動についても科研費の活動を通して頑張っていることがわかった。 ・科研費の在籍教員数当たりの採択件数の多さや研究実績をもっとアピールしてほしい。 ・基盤研究Bも含む科研費採択率全国1位は高く評価される。教育分野に重点を置いた申請戦略も重要である。 ・外部資金が減少したのはやむを得ないものと考えますが、地域企業と連携を促進し、共同研究費の獲得増加にも力を入れていただきたい。 <p>教員の研究に対する高い意識が伺えます。教員の研究で得られた成果を学生にフィードバックして頂き、高専の活性化に繋げて頂ければと思います。</p>
<p>第Ⅳ部 社会活動</p>	<p>第11章 地域社会との連携 第12章 国際社会との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差している点において高く評価できる。 ・国際的な観点での展開として、これまでの取組は評価できる。今年度はコロナ事情で難しいと理解できる。 ・地域社会との交流は増やしていったほうが良いと思います。特に技術振興交流会の会員企業も増やすよう、アピールしたほうが良いと思います。国際交流についてはコロナが落ち着いてから、活動をしていってください。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、4年生の海外研修旅行をはじめ、その他の活動はすべて中止となったが、今後行う代替の交流事業を計画するご苦労があったと思う。 ・地域社会との連携を深め、公開講座、一般市民への学校開放など、高専の魅力を積極的に外部に発信するよう努めて頂ければと思います。又、国際交流については、海外研修やインターンシップ、留学生との交流を通して国際的視野を身に付け、グローバルに活躍できる人材育成に努めて頂ければと思います。
<p>第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営</p>	<p>第13章 広報活動 第14章 評価 第15章 管理運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な入学者の獲得に注力し、教職員が一丸となって取り組んでいることが高く評価できる。 ・広報活動は活発に行っているが、今後も活発にお願いします。
<p>〔全体についてのご意見〕</p> <p>・全体的にバランスよく整えられ、教育研究が進められているという印象を受けました。校長先生のリーダーシップそして教職員の皆様がそれに答え、学校をよりよくしようという意気込みが感じられました。</p>		

・大変すばらしい学校だと思いました。卒業生は社会では優秀だと言われています。今後も優秀な人材を育ててください。

・就職率の維持。

・共同研究，受託研究に向けた取組みの強化。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止による様々な制約がある中で、学生の安全・安心を第一に考え、創意工夫ある活動を進めているのがよくわかった。

・校長のリーダーシップの下、教職員が一丸となって教育・研究等に取り組まれ、全国の高専の中でもトップクラスの成果をあげていることがよく理解できた。今後も変化のめまぐるしい、予測困難な社会に生きることができる人材を育ててほしい。

・石川高専の伝統になっている丁寧な教育指導は、高い教育効果をあげている。

・志願者数の減少はやむを得ない面もあるが、原因分析を進めて改善の努力をして欲しい。

・教員の共同研究費獲得はそう多くは無いようだが、科研費獲得実績については高く評価される。

Ⅲ 運営諮問会議の意見の要約（講評）

運営諮問会議議長 森本章治

石川工業高等専門学校（以下、石川高専）から、全体の概要説明に続いて、「理念・目的」、「教育活動」等に区分した事項について説明があり、その後、質疑応答・意見交換が行われた。なお、委員からの意見は概ね以下のとおりであった。

1 学校の理念・目的について

基本理念，教育理念および学習目標を尊重し，教職員一同が取組んでいることは高く評価できる。

2 教育活動（学生支援等含む）について

志願者数減少の原因分析を進めることが重要と考える。

コロナ禍の中，厳しいとは思いますが学力の向上を図っていただきたい。

3 研究活動について

教員の半分が科研費を獲得し，高いレベルで実績を挙げていることは素晴らしい。

コロナ禍の中，外部資金が減少したことはやむを得ないが，地元企業と連携を促進し，共同研究の獲得増加に力を入れていただきたい。

4 社会活動（地域社会との連携，国際社会との交流）について

地域に根差している点において，高く評価できる。

国際的な観点での展開として，これまでの取組みは評価できる。

5 広報・評価・管理運営

優秀な入学者の獲得に尽力し，教職員一丸となって取組んでいることは評価できる。

以上，石川高専の教育，研究，社会活動等については，各委員から積極的に評価する意見が多く出された。校長先生のリーダーシップの下，教職員が一丸となり高専教育に取り組み，リーダー的存在になることを期待する。

運営諮問会議開催の公表

・石川工業高等専門学校ホームページ

令和2年度運営諮問会議を開催

2月26日(金)本校において、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を開催しました。この会議は、地域の学外有識者の方々に本校の教育活動、研究活動、社会活動および管理運営等について、自己点検評価に基づき評価をいただくもので、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としています。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席しました。

はじめに須田校長が挨拶を行い、その後、議長に金沢大学理工研究域長・理工学域長の森本氏が選出されました。

議事に入り、須田校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献および国際交流等について各担当者から説明がありました。その後、質疑・意見交換が活発に行われ、多くの有意義なご意見をいただき、最後に森本議長から全体の講評がありました。

本校では、今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の教育研究活動の充実につなげていきます。



会議風景



議長の森本金沢大学
(金沢大学理工研究域長・理工学域長)

・刊行物

文教ニュース 2021年3月22日

石川高専 令和2年度運営諮問会議

石川高専は2月26日、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を開催した。同会議は、石川高専の教育活動、研究活動、社会活動などについて自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言を行い、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としている。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席した。はじめに須田義昭校長の挨拶後、議長に金沢大学理工研究域長・理工学域長の森本章治氏が選出された。

議長の森本金沢大理工研究域長

文教速報 2021年3月22日

石川高専 運営諮問会議を開催

石川高専では、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議をこのほど開催した。石川高専の教育活動、研究活動、社会活動などについて自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言を行い、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としている。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者6名と、石川高専側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席した。会議では、須田義昭校長の挨拶後、議長に金沢大学理工研究域長の森本章治氏を選出。続いて議事に入り、須田校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献と国際交流などについて各担当者から説明され、質疑・意見交換が活発に行われた。委員からは多くの有意義な意見や提言があり、最後に森本議長から全体の講評述べられた。同校では今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の教育研究活動の充実につなげていくとしている。

議長は、マスクの着用、飛沫防止パネル設置など、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて実施された。

議長の森本金沢大理工研究域長

おわりに

新型コロナウイルス感染症の勢いが一向に収まらない中、本校側の出席者を絞った形ではありましたが、令和2年度の運営諮問会議を無事に開催できたことに対し、出席された委員の皆様をはじめとする関係者各位に感謝を申し上げます。この1年間は本校にとってもコロナ禍のなかで如何に学生の学びを止めないかに苦心し、もがいた1年でもありました。本校の1年間の活動や取組みに対する外部の有識者から忌憚のないご意見を伺う本会議は、本校にとって大変貴重な場であり、今回も様々なご指摘・ご意見をいただきました。

まず教育活動全般については、委員の皆様からは高い評価をいただきました。一方で少子化に伴い今年度の入試倍率が低下したことに関しては、学校広報の観点からご意見をいただきました。これまで7月下旬の二日間で実施していた体験入学を今年度はオンラインで実施したため、本校の素晴らしい施設を実感してもらう機会を失ったわけですが、これに関しては学校案内の動画配信や中学校への動画の提供などの工夫ができたのではとのご指摘がありました。実は今年度、学校案内の動画を新たに作成中ではありましたが、体験入学には間に合いませんでした。次年度は委員のご指摘を受け、作成した動画を有効に活用しながら学校広報に注力していきたいと考えています。

研究体制については、昨年度に引き続き科研費の採択件数が高専の中でトップクラスを維持していることに高い評価をいただきました。教育と研究は車の両輪と考えます。どちらかが欠けても学生に質の高い教育を提供することができません。この二つのバランスを取りながら今後も研究活動を進めて、最新の科学技術の情報を学生に提供していくつもりです。また地域企業が抱える問題に関しては、共同研究をとおしてさらに積極的に貢献していく必要も感じております。

地域連携については技術振興交流会による教職員と企業との交流活動はコロナ禍で減少しましたが、専攻科の長期インターンシップやオンラインで実施した企業技術説明会などについては評価をいただきました。

国際交流については、今年度は残念ながら4年生の海外研修旅行は中止せざるを得ませんでした。また依然として世界的に感染症の収束には至っておらず、令和3年度の海外研修旅行の実施は極めて難しい状況にあります。それに代わる国内研修旅行を現在計画しております。

全体としては、委員の皆様から校長のリーダーシップの下、石川高専の活動全般に高い評価をいただきましたが、改善を要する課題のご指摘も受けました。本校教職員はご指摘された点を改善しつつ、コロナ禍でも質の高い教育を実践して高い専門性を持つ人材を育成し、社会に貢献していく所存です。

最後に、年度末のご多忙かつ大変な状況の下で、本校教育運営の改善にご尽力をいただきました運営諮問会議委員各位に対し、深甚の謝意を表します。また、自己点検評価報告をまとめた本校の総合企画会議及び点検評価委員会の委員各位、報告書・資料集の取りまとめおよび作成にあたった総務課の皆さんにお礼を申し上げます。

令和3年3月29日

石川工業高等専門学校
副校長 瀬戸 悟



石川工業高等専門学校の課題
令和2年度 外部評価報告書

発行 令和3年5月
編集 総合企画会議
発行者 石川工業高等専門学校
〒929-0392 石川県河北郡津幡町北中条夕1
TEL 076-288-8000
FAX 076-288-8014
URL <http://www.ishikawa-nct.ac.jp/>



独立行政法人国立高等専門学校機構

石川工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Ishikawa College